

Where is the

表紙の
イラストは
どこ？

cover illustration?



岐阜公園三重塔
金華山の麓に大正6年に
建立された三重塔。



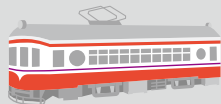
岐阜城案内
グルメやお土産が揃う
岐阜公園内の観光施設。



ロイヤル劇場ビル
柳ヶ瀬商店街にある
フィルム映画館が残るビル。



裏参道モール
伊奈波裏参道の古民家を
改装した商業施設。



丸窓電車
大正15年製の路面電車を
JR岐阜駅の広場に展示。

メディコス文化道とは？

みんなの森 ぎふメディアコスモスが発行する季刊紙として、2021年に創刊した「メディコス文化道」。メディコスを起点に人をつなぐ文化の道がまちへと広がってほしいと願って「文化道」と名付けました。この小さな冊子が、あなたとまちの文化が出逢うきっかけとなりますように。

これまでの文化道は
WEBで読めます！



メディコス文化道 vol.20

(2026年9月発行)

発行 / みんなの森 ぎふメディアコスモス

編集・デザイン /

さかだちブックス(株式会社リトルクリエイティブセンター)

まち歩きステーションを もっと活用してみよう！

メディコス1階の「ぎふ古今」で利用できる「まち歩きステーション」では、市内の250以上の“まち歩きスポット”を紹介！自分だけのオリジナルMAPも作れます。また、まち歩きスポットはWEBで探すこともできます！



まち歩き
ステーションWEB

[みんなの森 ぎふメディアコスモス]

〒500-8076

岐阜市司町40-5

TEL.058-265-4101

<https://g-medicosmos.jp/>



メディコスHP



みんなの森
GIFU MEDIA COSMOS

メディコス 文化道

Medicos
Bunkamichi

MEDICOS JOURNAL
まちのクロストーク
わたしがまちを歩いたら。
岐阜カルチャー案内

VOL. 20



MEDICOS JOURNAL

2026
AUTUMN

メディコス
ジャーナル

メディコスの
イベント、取り組み
イロイロ紹介！

特集

01

「メディコスの日2026」開催！
メディコスの誕生日を祝う



提灯を灯したやぐらが立ち、メディコス前の広場が盆踊り会場に。「川崎」「春駒」などの曲に合わせ、幅広い世代が一緒に踊りました。

マルシェやワークショップ、
盆踊りなど多彩な企画でお祝い！

2026年7月18・19日に「メディコスの日2026」が開催されました。2015年7月18日に開館したメディコスでは、毎年7月に誕生日を祝うイベントを開催しており、今年も2日間にわたって、さまざまな企画が行われました。両日にわたって館内外を盛り上げたのは、毎年11月3日に各務原市で行われているマルシェイベント「マーケット日和」のチームが企画した「夏のマーケット日和」。広場には岐阜や

東海圏で人気のキッチンカーがずらりと集まり、ランチにぴったりなハンバーガーや丼、涼を感じるアイスやドリンクなどを販売。館内では、ZINEやリトルプレスなどの本や文具、洋服や雑貨などを扱うショップが並び、来館者はじっくり服やアクセサリを選んだり、出店者と会話を弾ませたりして買い物を満喫。さらに、子どもたちが背負える「ちょうちょの羽」を作るワークショップや活版印刷、シルクスクリーンなどものづくり体験のブースもあり、参加者は夢中になって手を動かしていました。18日夕方に行われたのは、「京町夏祭り盆踊

り大会」。広場にやぐらが組み立てられると、浴衣や甚平姿の方々が続々と現れ、この日一番の賑わいに。親子連れやお年寄り、ボランティアとして参加していた中学生など、幅広い世代の参加者がゆるやかな輪になって盆踊りの定番曲に合わせて踊り、夏祭りらしい光景が広がりました。そのほか、18日には岐阜出身のミステリー小説家・中山七里さんのトーク「作家と語ろう in 岐阜」や物知り案内人の「コスモスさん」のガイドで館内を巡る「メディコスアドベンチャー」、19日



には小学生がさまざまな仕事や選挙などにチャレンジする「ぎふマーブルタウン」、クイズや遊びを通して外国文化に触れる「国際交流休憩所」、大きなスクリーンでの読み聞かせ、閉館後の夜の図書館でチェロとコントラバスの音色に浸る「夜の音楽会@図書館」など、館内外で多くのユニークな企画が実施され、メディコスの周年を祝うにふさわしい2日間となりました。



特集

02

宇宙をテーマにした企画
「メディコス宇宙探検隊」が初開催！

2026年7月18日にドキドキテラスで開催された「メディコス宇宙探検隊」では、宇宙にちなんだ3つの企画が行われました。トークイベント「宇宙のおはなし」では、岐阜かかみがはら航空宇宙博物館の学芸員が、「世界一ロケットを打ち上げている国は？」「現在地を知るための人工衛星は？」などのクイズを交えながら、宇宙と世界のミッションをわかりやすく紹介。子どもも大人も熱心に聞き入っていました。ほかにもメディコス公式キャラクター「モーリー」の友達を描いてスクリーンの宇宙に送る「石田意志雄さんと描く宇宙のなかまたち」、傘袋で手作りロケットを作る「かさ袋ロケット教室」が行われ、訪れた人は楽しみながら宇宙に親しむ時間を過ごしました。



特集 03

個性豊かな力作が完成！
「みんなの森の住人たち」

“みんなの森”に住む生きもののオブジェを制作するアートワークショップ「みんなの森の住人たち 2026」。参加者は事前に作ったパーツを持参したり、お昼ご飯を忘れるくらい集中したりと、精力的に創作に取り組んでいました。今年は「まちの仲間をつくろう」がテーマで、完成した作品は岐阜大仏や金華山、鶺鴒などをイメージした創意工夫にあふれたものばかり。「本の蔵」に展示されていますので、ぜひ実物をご覧ください。



モーリーがメディコスの気になる話題を紹介！

モーリーニュース



モーリーの友達が次々と誕生！宇宙を漂いました！

「メディコス宇宙探検隊」の企画の一つ「石田意志雄さんと描く宇宙のなかまたち」では、メディコスの公式キャラクター「モーリー」の“お友達”のイラストを子どもたちが描き、イラストレーターの石田意志雄さんが仕上げて、宇宙に見立てたスクリーンに送りました。宇宙人らしいものから想像力あふれるキャラクターまで個性적인 “お友達” が誕生し、最後は60体以上のモーリーの仲間が宇宙を漂いました！



イベント中は、アンケートに答えた方に「モーリー」のステッカーやオリジナルポストカードが配布されました！



まちの グロストーク

〔テーマ〕
まちとアート

岐阜市で地域と深く関わりながらさまざまな活動をしている2人のキーパーソンに、このまちの暮らしや文化、魅力、思い描く未来について、たっぷり語っていただきました！

高校の美術科で先生と生徒として 一緒に教室で過ごした3年間

—加藤さんと渡辺さんは先生と教え子の
関係だったんですね？

加藤 はい。私が美術教諭として加納高校美術科に赴任して2年目の年に、悠太さんが46回生として入学してきて、3年間、実技の授業を担当していました。

—渡辺さんはどんな生徒でしたか？

加藤 昔から自分のことをよく話したり、アピールしたりするタイプではなく、穏やかで寡黙に淡々と制作をする感じでした。でも、内側に絶対的な意志の強さを持っているという印象がありましたね。

—加藤さんはどんな先生でしたか？

渡辺 厳しかったです！僕はデッサンが苦手で、アドバイスをもらっても思った通りに描けなくて。基本的には褒められてなかった記憶があります…(笑)。

加藤 たしかに厳しかったよね(笑)。当時は美大の受験システムが確立されていて、高校でも朝から夜までカリキュラムが組まれていて、すごくんじがらめで。

渡辺 絵を描くことが好きで選んだ進路なのに、これって何が楽しいんだろうって思うこともありました。

加藤 当時は楽しくというより、生徒に美術を生涯続けるための基礎を身につけてもらうのが目標で、アートに携わる人としての姿勢を学んだり、真実を突き詰めたり、自分や美術に向き合ってもらって、追い込むというか…。だから、どの子も一度は「やめたい」って言っていました。でも、そこまで向き合えないと、先に進めない。将来のために必要な時期だったと思ってます。

渡辺 そうですね。今思うと、あの高校時代はすごく貴重な3年間でした。あれがあったから今がある、と思います。

アートを通して自分と向き合う

—渡辺さんは高校、大学と美術を学んだ後、どのように画家として活動されてきたんでしょうか。

渡辺 2016年に柳ヶ瀬にできたシェアアトリエビル「カンダマチノート」にアトリエを借り、3年後に長良エリアにオープンした「&n(アンドン)」に引っ越して、毎日、アトリエで作品を制作しています。

—二人にとってアートとは何でしょう？

渡辺 アートは、僕にとって“生活の一部”ですね。描く、見る、ワークショップを開く。何も制作をしていない日はありません。自



Lucca445 主宰
加藤 普 使 子 さん

岐阜県内の高校に美術科教諭として28年間勤務後、退職。2017年に柳ヶ瀬商店街にギャラリー兼アトリエ「Lucca445」をオープン。



画家
渡辺 悠 太 さん

加納高校美術科・名古屋芸術大学美術学部卒業。2019年から岐阜市長良にある複合施設「&n」にアトリエを構え、制作活動を行う。

分の内側にある、言葉や形にできないものを絵に置き換え、景色や人、家族との関わり、考えを作品として表現しています。描くことで考えが整理されたり、発見があったりして。作品を作ることは“消化”であり、“吸収”でもあるのかなと思います。

—加藤さんはいかがですか？

加藤 私は画家として、アートは自分の中にある言葉にならないものを造形し、可視化するものだと考えていて。作品は、それを観る人にとって“自分自身と向き合う装置”になればいいなと思っています。それから、私は世の中のすべての人がアートのDNAを持っていると思っています。その“アートマインド”が自然に出てくるような社会、アートがもっと活用される良い社会になってほしくて、美術活動家としてまちにアートを広める活動もしています。

アートイベント「ART LIFE GIFU」

—加藤さんは毎年11月に岐阜市のまちなかを会場とした回遊型アートイベント「ART LIFE GIFU」を開催していますね。

加藤 2021年に始まったんですが、当時はコロナ禍で展示も出来なくなり、まちに閉塞感があって。「小さくても、できることから何かをやろう!」と、声を掛けられる範囲で、商店街やカフェなど9カ所で10人の作家に展示をしてもらいました。

渡辺 僕は第1回から参加していますが、真っ先に声がかかって嬉しかったです。柳ヶ瀬の「Takuro Coffee」で展示をさせてもらえることになって、お店に合わせて作品を選んだり、新たに制作したり、店先でライブペイントもしました！

加藤 Takuro Coffeeの店主さんと悠太さんはお互いに自分の道を切り拓いていて、年齢も近いし、この二人を引き合わせたい、と思ったんです。

渡辺 普段のギャラリーでの展示と違い、カフェでお客さんが観てくれるので、展示する作品の幅も、出会う人の幅も広がって面白かったですね。

加藤 3年目の2023年は、柳ヶ瀬にある大垣共立銀行の「OKB岐阜中央プラザわくわくベースG」で、ワークショップもやったよね。あれ、楽しかった！

渡辺 大きなガラス窓に僕が岐阜をモチーフにした岐阜城や鶴飼とかの下絵を描いて、子どもたちが自由に色を塗るっていう…カオスのようなイベントでした(笑)。でも、子どもたちと一緒に“同じ場所を共有する”ってことがすごく良かった。完成した絵を1ヶ月以上残してもらえたのも嬉しかったですね。

メディコスでのワークショップ 「みんなの森の住人たち」

ーメディコスで2022年から毎年7月に開催しているアートワークショップ「みんなの森の住人たち」では、二人とも講師アーティストとして参加されていますね。

加藤 ダンボールなどで“みんなの森”に住む仲間を作るんですが、普段は家で大掛かりに何かを作ることってできないですし、つい大人は止める側になってしましますが、大人も子どもも同じ立場でアートに触れて、ものづくりができる。すごくいい機会だな、って思います。

渡辺 アーティストはオブジェを1人で作るので必死ですが、参加者と一緒に空間で制作するのが楽しいですね。

加藤 アーティスト(=作る人)と観る人という関係性がシームレスになって、みんなと一緒にアートと触れ合えるところに意味がありますよね。親子、祖父母と孫、仲間、いろんな参加者同士の関係性もシームレスになる、すごくいいワークショップだと思っています。

ART LIFE GIFUでまちを巡り アートの力を体験してほしい

ー今年も11月に「ART LIFE GIFU」が開催されますが、見どころはありますか？

加藤 今年からいよいよ岐阜駅エリアが加わって、JR岐阜駅に隣接する「アクティブG」での館内展示を中心に、30人くらいの作家に参加していただく予定です！岐阜駅から長良エリアまで広がり、まさに「まちを巡る、アートと暮らす」というコンセプト通りの回遊型アートイベントになりますよ。

渡辺 もちろん、僕も参加します！

加藤 まちの景色にアートが出現することで、何でもない日常でも自分の暮らしや気分が変わる、そんなアートの力を、ぜひ体験してほしいです。

RECOMMENDED SPOTS
こっそり
教える

加藤さん&渡辺さんが おすすめ推しSPOT

ティタティタ

柳ヶ瀬商店街のレトロなビルにあるテイクアウト専門店。おにぎりは鮭や菜めし、のりの佃煮など8種類ほどが揃い、毎朝炊くお米がなくなり次第、売り切れに。9種類ほどのしつとりふわふわな蒸しぱんや、沖縄のおやつ「さーたーあんだぎー」も人気。また、毎月第4日曜は魚のすり身でご飯を包んで揚げた「かまぼこおにぎり」も販売！お店の隣には小さなイートインスペースもあります。



岐阜市日ノ出町1-20
ロイヤル劇場ビル1F
※営業日時はInstagramにて確認
@ @tidatida_info

私が特にお気に入りの
おにぎりは鮭！
パリパリの海苔を巻いた
塩むすびもおすすめです。



モーニングもランチも
すごく美味しいです！
晴れた日は金華山と岐阜城が
眺められるテラス席で！

THE NOMAD LIFE cafe



長良川うかいミュージアムのすぐ北にある複合施設「&n」に2023年にオープンしたカフェ。モーニングやランチ、カフェタイムのデザートも手作り。毎月献立が変わるランチの「本日の御膳」は、主菜が肉か魚から選べ、お客さんからリクエストが多かったハーフ&ハーフも登場！地元で採れた野菜をふんだんに使った滋味深い副菜や雑穀米のご飯、汁物も付いて、お腹も心も満たされます。

岐阜市長良45-1 &n 1F
9:30~16:30
木・金曜定休
@ @thenomadlife_cafe



クロストークの会場



Atelier + Gallery WATANABE YUTA

渡辺悠太さんのアトリエ兼ギャラリー。
在廊中は予約なしで自由に観覧可能。

岐阜市長良45-1 &n 奥の2F
10:00~16:00頃
@ @yuta_watanabe11



ART LIFE GIFU
Instagram



渡辺悠太
Instagram

わたしがまちを歩いたら。

このコラムでは、メディコス編集講座修了生が
岐阜市の魅力的なスポットを取材しています！

焼どころ もんち



岐阜市高岩町10
11:00～13:30、17:00～22:00
日曜定休
TEL.058-263-8266

「粉もんが好きです。市内には有名な鉄板焼きの店が何軒もありますが、私の推しは『焼どころもんち』。鉄板焼きや串のメニューは豊富で、どれもボリューム満点。複数人でいろいろな料理をシェアするのが楽しい食べ方です。締めはお好み焼き。具たくさんで大きいというのか、厚いというのか、存在感に圧倒されます。お店を1人で

仕切るのは『もんち』こと森田和子さん。会社員を辞めてお店を始めたのが35年前。以来、今まで焼いて焼いて焼いて、焼きまくっています。ランチもあります。『焼きそば定食』『野菜炒め定食』の2種類。メインの他に炊き込みご飯、小鉢、みそ汁、コーヒードリンク付きで650円。至れり尽くせりでお腹いっぱいになります。

創業28年目を迎える『珈琲屋さむ』。店主の青山知憲さんは岐阜市出身。進学を機に神戸へ移り、珈琲屋に就職したが、阪神・淡路大震災で職場も住まいも大きな被害を受けた。一度は岐阜に帰ったものの再び神戸へ戻り、お店の再建を最後まで手伝った。そのとき、一杯の珈琲が人の心を満たし温める力を持つこと、人とのつながりのなか

で人は生きていくことを実感したという。その思いから地元で店を構えた。店名の「さむ」は作務衣から。珈琲を誰もが「手の届く日常の幸せ」として楽しめるものであってほしいという願いが込められている。珈琲豆をモチーフにした楕円形の窓やまわりの古い写真が並ぶ店内は、人と人がつながる温かな空間だ。

珈琲屋さむ



岐阜市神田町6-17
10:00～18:30 水曜定休
TEL.058-262-3636
@samu_samu3636

第3期修了生 稲川和宏さん



いつも思うのですが、岐阜の人はみんな、味噌カツが大好きですね。でも、最良の店を聞くとばらばら。味噌ダレもしゃびしゃびだったり濃厚だったり、甘かったり辛かったりと店によってさまざま。一度、夜を徹して味噌カツ談義をしてみたいです。

稲川さんが
編集講座で書いた
ブログはこちら



第2期修了生 山本沙智代さん



取材させていただいた「珈琲屋さむ」さんのように、ご近所さんとああでもない、こうでもない何気なく言葉を交わし合い、笑顔になったり元気が出たりする場所が、日常にあるってとても幸せなことだと改めて感じました。

山本さんが
編集講座で書いた
ブログはこちら



岐阜カルチャー案内



ドメヌ・ヒサマツ 代表
久松吾郎さん

近代日本ワインの父と呼ばれる醸造家の麻井宇介さんに3人の若者がワイン造りを学び、素晴らしいワインを作るノンフィクション「ウスケボーイズ 日本ワインの革命児たち」という本を読み、「日本でもこんなワインを造ることができるのか!」と感動して、いつか自分もワインを造りたいと思うようになりました。

岐阜大学工学部を卒業後、スポーツ用品メーカーに勤めていましたが、2019年に50歳で退職。地元の2つの畑にぶどうの木を植え、ワイン造りを始めました。品種は赤ワイン用のメルローだけ。実は岐阜は標高が低く、雨や湿気も多いため、ぶどう作りには適さないのですが、「ウスケ」さんが「宿命的風土論の超克」と

岐阜の地で生まれる
“しみじみうまい”
ワインを造りたい。

唱えたように、土壌を人の手で開拓することで、どんな土地でも、美味しいワインを造ることはできるわけです。2019年から2年間、岡山市新見市にあるワイナリーで修業し、ひたすらぶどうの木を育て、2024年に収穫したぶどうを醸造。2025年11月に初めて、畑の地名を付けた2銘柄の1stヴィンテージを販売しました。「長良小松町」は女性的で優しく、「岩利五丁目」は男性的で深みのある味わいでした。今年発売する2ndヴィンテージは、岩利の方はアルコール発酵後も甘みが残り、意図せず今年にしかできない面白いワインになりそうです。ワイン造りは常に試行錯誤ですが、岐阜の地でできる“しみじみうまい”、感動するワインを目指して、ワインを造り続けたいですね。



ドメヌ・ヒサマツ

岐阜市長良福光1600-9
<https://www.domainehisamatsu.com/>
@domaine_hisamatsu



Website

アノ人に聞いてみた、 ワインと本の話。



BRIDGE BOOKS 店主
中村壮太さん

20代の頃に夢中だった
音楽とファッション、
その記憶を呼び起こす本。

僕が20代の頃、90年代は新しいジャンルの音楽がたくさん現れ、夢中でレコードやCDにお金を注ぎ込んでいました。家賃2万8千円の古アパートで一人暮らし。何もない部屋でやることと言えば、音楽を聴くだけでしたが、ある日近くのゲオで300円ぐらいの古本を買ったら、意外と面白かった。そこから読書にどんなハマっていきました。

いつか、老後にでも本屋をやりたいと思っていましたが、京都にある書店「ホホホ座」店主の山下賢二さんの著書「ガケ書房の頃」に出会い、本屋開業・運営の具体的な流れがイメージできたことで、一気に「今、やってみたい」という現実的な気持ちに。貯金を切り崩し、自分の手で少しずつ修繕や什器作りを進め、ほぼ自分の蔵書を並べ

る形で、2025年12月にオープンを迎えました。扱っているのは古本と新刊で、僕が好きな海外文学やアート本、写真集、音楽に関する書籍が多めです。おすすめはベルギーのファッションデザイナー6人の作品集『THE ANTWERP SIX』。僕が高校生だった頃、柳ヶ瀬に「岐阜センサ」というファッションビルがありました。今思えば信じられないほど豪華な国内外のブランドが集まり、最新の音楽が流れ、まさにカルチャーの発信地でしたね。当時は朝に新聞配達、夜は王将でバイトをして、稼いだお金をすべて音楽と服に注ぎ込んでいました。この本をめくると、当時のファッションに対する熱狂的な記憶が鮮やかに蘇るんです。



ブリッジブックス

BRIDGE BOOKS

岐阜市金町6-1-2
TEL.058-214-3772
※営業日時はInstagramにて確認
@pissroom



Instagram

岐阜市立中央図書館だより

岐阜市立中央図書館は、「ここにいることが気持ちいい」「ここにずっと居たくなる」「何度でも来たくなる」を合言葉に、市民の想いに寄り添う、居心地の良い滞在型図書館を目指しています。今回は、中央図書館が企画・主催する「子ども司書養成講座」を紹介します。

PICK UP

子ども司書養成講座

「子ども司書養成講座」は、司書の仕事や図書館のしくみを楽しく学ぶ講座です。小学4年生～中学3年生が対象で、4日間の講座では、図書館の役割や本の分類を座学で学ぶほか、絵本の読み聞かせ、レファレンス体験、ブックトーク、オリジナル絵本の制作、本のポップ作りなどを体験。「読書ってかっこいい！わくわくする！」と伝えられる“本と人との結ぶリーダー”となることを目指しています。講座修了後は、市民ラジオ「てにておラジオ」の番組「小さな司書のラジオ局」の企画・収録に参加したり、イベントで他の図書館と交流できたりと、さまざまな取り組みに参加することができます。



ブックトークの講座では、聞き手が読みたくなるように工夫して本を紹介。



絵本作りの講座では、イラストも文章も自分で考えた個性豊かな絵本が完成しました。

参加した子どもたちの声

- ・普段は見られない図書館の裏側が見られて楽しかった
- ・実際の本を使って分類を考えるのが面白かった
- ・本を見せながら読み聞かせをするのが難しかった